

導入製品 AmiVoice ScribeAssist (アミボイス スクライブアシスト)

2023年9月導入

# リアルタイムの字幕表示で 「開かれた議会」の実現に貢献 先進的な取り組みとして問い合わせも



※ 出典：合同会社ecarlate「音声認識市場動向2023」

## 導入のポイント

## 課題

聴覚障がいを持つ方の傍聴が増えており、どのように支援できるのか苦慮していた

全庁でのシステム導入は大掛かりなプロジェクトとなり導入までに時間がかかる

## 効果

音声認識を活用して議場にリアルタイムに字幕を表示し、開かれた議会を実現

端末ごとにオンプレミスで導入でき、安価な定額制ですぐに利用開始できたため、検討コストが極めて少なかった

## Customer Profile



山梨県 甲斐市役所 様

所在地：山梨県甲斐市

市長：保坂 武

職員数：478名(2023年4月1日現在)

## 自治体としての課題と字幕利用の重要性

甲斐市役所は他の自治体と同様に開かれた議会を目指しています。その中で聴覚障がいを持つ方々の傍聴も増えており、手話通訳者の帯同の有無に関わらずどのように支援できるかを検討していました。



## 使いやすさと導入のしやすさ

既に他社の音声認識サービスを導入していましたが、あまり庁内の評判が良くなく、解決手段として音声認識は選択肢がありませんでした。しかし「AmiVoice ScribeAssist」の提案を受けて、実際に試してみると音声認識精度も使い勝手も非常に良く、導入を決めました。

全庁でのシステム導入となると、各部局へのヒアリングや調整、セキュリティに関する確認などが必要です。そのため大掛かりな

プロジェクトとなり、導入までには非常に時間がかかります。しかし「AmiVoice ScribeAssist」は端末ごとにオンプレミスで導入でき、かつ安価な定額制ですぐに利用開始できたため検討コストが極めて低かったのもポイントでした。



## 情報保障だけではない効果も

音声認識を活用し議場にリアルタイムに字幕を表示すれば、議場の情報保障になるだけでなく、ふりがなが振ってあるため子供にも内容の理解がしやすくなります。また、会議中に万が一聞き逃してしまっても、その場で振り返りがしやすいという効果も感じています。

## 議会での字幕表示以外の活用も

「AmiVoice ScribeAssist」は定額制であり、利用すればするほどコストパフォーマンスが上がるため、字幕表示以外の

活用も検討しています。例えば、議会当日から翌日に質疑の部分的な情報開示を受けたような場合に活用できる見込みです。

## 導入後、県内から複数の問い合わせあり

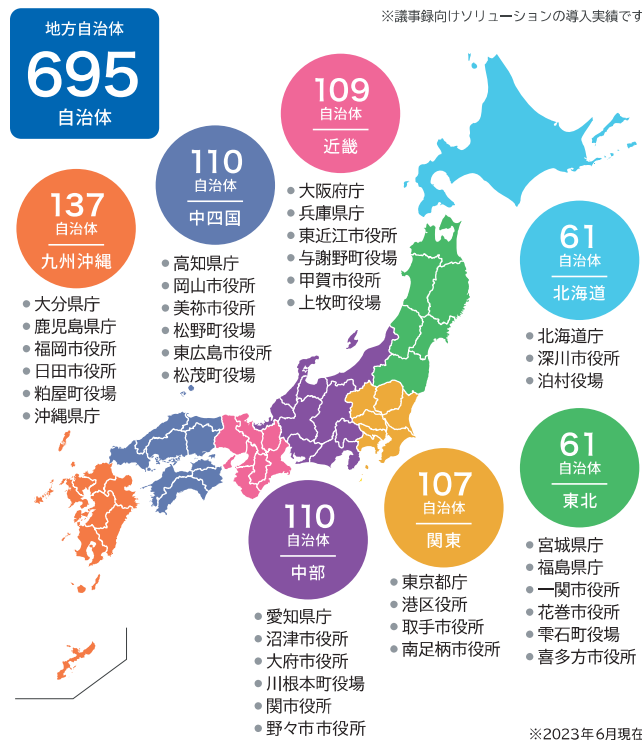
この字幕利用の取り組みについては、県内から複数の問い合わせがありました。自治体間の互助の一環として、先進的な事例としての視察も受け入れられれば幸いです。



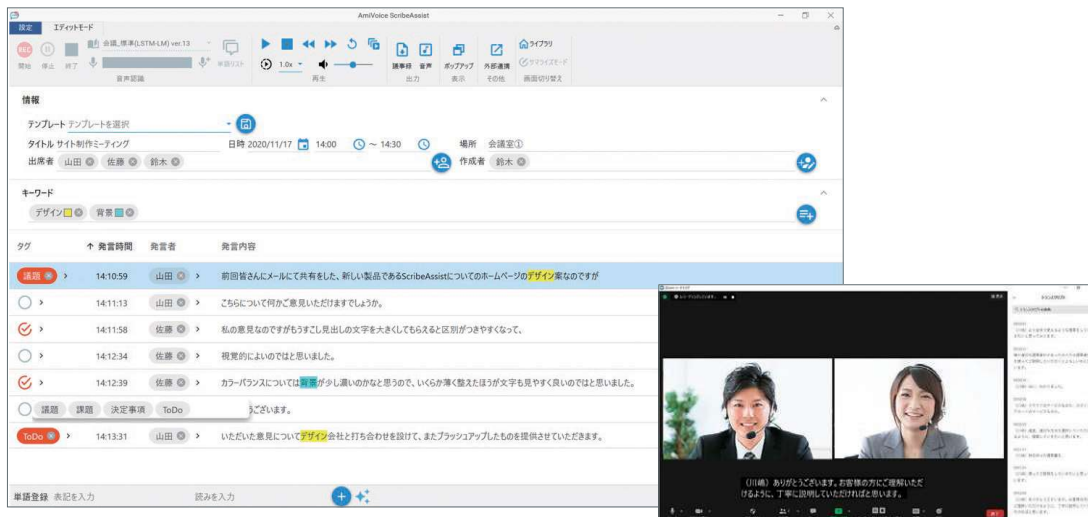
議会事務局 深澤様

## 導入実績

※議事録向けソリューションの導入実績です



## 製品情報



### ● AmiVoice ScribeAssist (アミボイス スクライブアシスト)

オンライン/オフラインといった会議形態、WEB会議システムの種類を問わず使用できる、文字起こし支援アプリケーションです。リアルタイム認識・バッチ認識に対応しており、会議音声の録音、音声認識、テキストの編集、文字起こし内容の出力までをワンストップで行えます。スタンドアローン型のため、情報漏洩のリスクがなく、機密情報などを扱う会議でも安心してご利用いただけます。



(販売代理店)



(開発・発売元)

株式会社アドバンスト・メディア  
VoXT (ボクスト) 事業部

〒170-6042

東京都豊島区東池袋3-1-1 サンシャイン60 42F

URL : <http://www.advanced-media.co.jp/>

Mail : [voxt-info@advanced-media.co.jp](mailto:voxt-info@advanced-media.co.jp)



※弊社は(財)日本情報処理開発協会により、個人情報保護法に基づき、個人情報を適切に取り扱っている事業者であることを示す「プライバシーマーク」の付与認定を受けています。